

国際理解教育/開発教育 学習指導案・報告書【小学校：社会科】

【実践者】

授業者氏名	中村 祐哉	学校名	広島県／熊野町立熊野第一小学校
教科（科目）・領域	社会科	対象学年（人数）	第6学年3組（29名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2020年12月（全7時間）		

【実施概要】

1. 単元名（活動名）：世界の未来と日本の役割 ～ラオス 18番目のSDGs～ （国際社会における「本当に必要な支援とは何か？」を問う構想型授業の構築）					
2. 実践する教科・領域： 初等社会科 （現代社会の仕組みや働きと人々の生活）	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人 権	環 境	平 和	開 発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： 持続可能な社会の意義を考えることを通して、世界や日本には現地の人々と協力して国際社会的諸問題の解決に向けて努める多くの人々がいることを理解し、これら諸問題に対して国際社会での日本の役割について考え、自分たち自身にできることを追究しようとする。					
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解している。			
	②思考力、判断力、表現力等	地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、我が国の国際支援、国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を多角的に考え、表現している。			
	③学びに向かう力	グローバル化する世界と日本の役割について、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。			

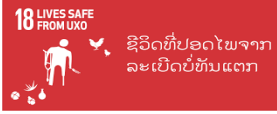
6. 単元設定の理由・単元の意義 (児童観、教材観、指導観)	【単元設定の理由あるいは単元の意義】 本単元において、汎用的な資質・能力である思考力の育成を図る上で、児童が批判的思考力を働かせながら、社会的事象と向き合うことで、その事象の未来像を予測し、よりよい社会の構築に向けた計画を立てる力が育まれると考えた。また、児童が多角的な視点に立って思考を働かせることのできる学びの場を教師がデザインすることによって、児童自身が授業で取り扱う社会的事象の深部に迫りながら、持続可能な社会を構想していく力へも紡いでいくことが可能であると考えた。そこで、これら資質・能力を育む上で、第5学年・第6学年の社会科単元における系統性を見据えてカリキュラムを構成(カリキュラムデザイン)し、ESDの視点に立った持続可能な社会づくりの構成概念である多様性・相互性・有限性・公平性・連携性・責任性についても、取り扱う社会的事象の中で適宜ふれさせながら、本実践の取組を進めていきたい。 【児童観】 児童は、前述したように、第5学年の社会科「これからの工業生産とわたしたち」において、本単元で取り扱う社会的事象(国際協力)の対象国であるラオス人民民主共和国(以下、ラオスと表記)について、その概略をレディネスとして獲得している。前年度においては、不発弾と不発弾処理活動を通して、工業製品の在り方と日本の工業技術について学習している。またSDGsについては、年度当初に社会科にて学習し、社会科や総合的な学習の時間の授業においては、これまで実施した全ての授業でSDGsとの関連を児童に思考させる時間を取ってきている。児童へのプライヤーサーヴェイにおいては、本単元で扱う「(国際)協力」や「(国際)支援、(国際)援助」といったキーワードから連想される言葉について問った。児童からは、「優しさ」「心配り」「誇り」「素晴らしい」等が挙げられた。また、これらキーワードイメージを「良い」「良くない」「わからない」の3択から選ばせた問いでは、93.1%の児童がプラスのファクターである「良い」を選択している。 【教材観】 児童にできるだけ社会的事象を近づけていくために、オーセンティックな教材(不発弾処理によって生まれるスクラップメタルから作られたスプーン等)を取り扱い、認知的不協和のより生み出しやすい場のデザインに役立てたい。第5学年の学習でラオスの不発弾処理に関わる社会的諸問題のレディネスをもった児童に対して、引き続きラオスにおける実情から「ラオスへの支援開始50周年」(2015)に関わる資料を活用し、歴史的事象に対して【単元設定の理由あるいは単元の意義】にて前述した「批判的に考える力」と、社会的事象の過去と現在・現状を見つめることで「未来を予想し計画する力」を育んでいきたい。また、歴史学習として過去・現在・未来をつないでいくためにまずは、日本の国際支援・国際協力におけるこれまでの活動概要について知ることから学びをスタートさせたい。提示資料からの読み取りや児童個々の調べ学習等も活用しながら、日本はラオスに対して、資金面における支援はもちろん、首都ヴィエンチャンの国際空港ターミナル建設や、主要幹線道路などのインフラ整備支援も積極的に行ってきた事実を読み取らせたい。 【指導観】 児童にとって現在進行形の社会的事象である日本の国際協力と、歴史的事実としてのこれまでの国際協力、国際支援を提示資料と児童の思考でつなぎ合わせていきながら、まずはその国際協力を行なったことで、現状がどのように変化したのかを児童に認識させることがこの構想型授業のベースとなる。これからの日本の国際協力や国際支援と支援該当国とのつながりを多角的に捉えさせていきながら、「国際支援＝全てが良い」という見方・考え方だけでなく、支援該当国の未来や、支援自体の在り方、方法等も思考させながら、日本の国際協力、国際支援に対する歴史的な見方・考え方を養うことにもつなげていきたい。
--	--

7. 単元計画（全7時間） 世界の未来と日本の役割 ～ラオス 18 番目の SDGs～			
時	ねらい	学習活動	資料など
1	世界にはさまざまな課題があることに対して SDGs を通して自分のこととして関心を持ち、その解決に向けた単元を見通す問いを考え、表現する。	- 実物資料から既習事項を振り返る。 - SDGs について改めて振り返る。 - 資料から世界を取り巻く課題を掴む。 - 単元を見通す問いを作成する。	不発弾処理で生まれたスクラップメタルから作られた工業製品（スプーン等）
2.3	国際連合の特色や各国連関連機関の取組、日本の人々の活動を調べることを通して、国際連合における日本の役割を理解する。	- 資料から国際連合での役割を調べ、学習問題を作成する。 - 広島市内にある国連組織（ユニタール広島）の動画資料を視聴する。 - 学習活動の振り返りをノートに書く。	- ユニセフによる日本支援時の写真資料 - ユニタール広島事務所動画資料
4	青年海外協力隊や NGO で活躍する人々の資料から、日本の国際協力、国際支援、国際援助の様子について理解する。	- 資料からめあてを設定する。 - 資料から国際協力、国際支援、国際援助の様子を調べる。 - 学習活動の振り返りをノートに書く。	- 支援該当対象各国現地写真資料 - 日本の国際支援に関するグラフ資料
5	日本の国際支援の歴史と支援当該対象各国の資料より、日本の継続的且つ長期的な国際支援における成果について、その価値を見出す。	- 資料から問題を作成する。 - 資料から国際支援の在り方について支援を行う国の立場から自分自身の考えをノートに書く。 - 資料から国際支援の成果について自分自身の考えをノートに書く。 - 学習活動の振り返りをノートに書く。	- 国際協力機構「持続する情熱-青年海外協力隊 50 年の軌跡」万葉舎(2016)内文章資料 - 青年海外協力隊事務局動画資料「【50 周年】青年海外協力隊 50 年のあゆみ」
6	長期化する国際支援の現状を把握できる支援当該対象国(ラオス)の資料等を通して、支援する国・支援を受ける国の立場から、その課題を見出す。	- 資料からめあてを設定する。 - 資料から国際支援の在り方について自支援を受ける国の立場から自分自身の考えをノートに書く。 - 資料から国際支援の課題について自分自身の考えをノートに書く。 - 学習活動の振り返りをノートに書く。	- 国際協力機構「持続する情熱-青年海外協力隊 50 年の軌跡」万葉舎(2016)内文章資料 (国際) 援助レジームの変容 (田中義皓, 1995) 初等教育向けマトリクス改稿資料

7 本時	SDGs に挙げられた 17 個の目標だけが世界における課題なのかを問い直し、これからの自分自身の SDGs に向けた取組の在り方を再考する。	- スライド資料からラオスに 18 番目の SDGs が設定されていることを知る。 - 資料から問題を作成する。 - 問題に対する自分自身の考えをノートに書く。 - 資料から日本とラオスの内政的課題と世界的課題について知る。 - 単元の学習について振り返りをノートに書く。	- ラオスが示す 18 番目の SDGs ロゴと、その記載内容についての文章資料 - 日本で現在も不発弾処理が行われている事実を把握することのできる写真資料、グラフ資料
---------	---	--	---

8. 本時の展開（概略）

本時のねらい：SDGs に挙げられた 17 の目標だけが世界の課題なのかを問い直し、これからの自分自身の SDGs に向けた取組の在り方を（世界との「つながり」をキーに）再考することができる。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	1. SDGs についてロゴフラッシュ型教材で振り返り、ラオス 18 番目の SDGs（不発弾撤廃）について知る。 「1 年間授業で扱ってきた SDGs についてフラッシュで振り返ってみましょう」 ・えっ、18 番って何。 ・18 番って初めて出てきます。 「改めて SDGs って何でしたか」 ・国連が出している持続可能な開発目標です。 ・誰でも取り組める、誰もが取り組んでいく世界の目標です。	・SDGs ロゴ学習ではなく、18 番目の提示があるということに視点を置いてフラッシュ型教材を扱う。 	・SDGs ロゴフラッシュ型教材（PPT） 
展開① (15分)	2. 本時の問いを作成する。 【問題】 ラオスが示す 18 番目の SDGs は、世界が取り組む課題として、適切と言えるのだろうか？ 3. 問いに対する自分の考えをもつ。 ・ラオスも世界の国の一員なので、18 番目の SDGs に設定されても良いと思う。 ・ラオス国内で不発弾のことが問題であって、世界的な問題までとは言えないと思うので、問題ではあるけれど、SDGs には入れるべきではないと思う。 ・戦争が生んだ不発弾で人の命に関わるものなので、そもそも SDGs の 16 番を目指すことで達成されるのではないかと思います。	・「世界が達成すべき課題」と「ラオスの国内における課題」という点に児童自身が認知的不協和を生み出し、問題を作らせたい。	・ラオスが示す 18 番目の SDGs ロゴ「不発弾撤廃」（UNDP ラオス） 

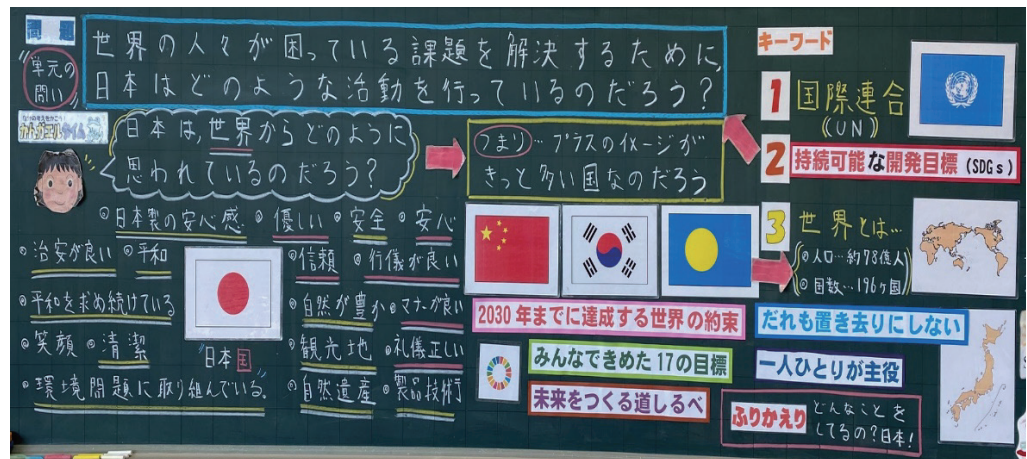
展開② (15分)	4. 不発弾を取り巻く世界的状況について知る。 (日本においても、不発弾に関する問題が今も残っていることを知る。→世界的な課題である事実) 「不発弾処理は、ラオス国内だけの課題なのか、資料で確認してみましょう」 ・ えっ、日本でも年間 1300 件以上も不発弾が見つかっているの。 ・ 一日に3発以上も見つかってるペースだ。 ・ 日本でも、残された不発弾が全て取り除かれるまでに後 80 年もかかるの。 ・ 世界中で今も不発弾は、処理され続けているんだね。「改めて、18 番目の SDGs として入れても良い問題かな」 ・ 世界的な問題だから、入れても良いと思う。	・ 日本と不発弾を取り巻く社会的側面として、支援的側面・加害的側面・被害的側面に触れる。	・ 日本と不発弾を取り巻く社会的側面（授業者作成資料）  ・ 日本国内における不発弾処理件数に関するグラフ型資料（内閣府沖縄総合事務局） ・ 火薬類災害事故年報（経済産業省）
まとめ (10分)	5. 自分自身の SDGs に向けた取組の在り方を再考し、単元の学習を振り返る。 「これまで春から 12 月まで SDGs を社会科や総合的な学習の時間で 100 時間以上取り扱って学習してきましたが、これまでの授業や今回、ラオスの 18 番目の SDGs を事例に学習をしてみて、SDGs に対する自分の考えが SDGs を知った時から変わったことや、自分自身の取組に対する考え、新たに知ったことなどを振り返りに書きましょう」 ・ 今までは、SDGs の 17 個の目標を達成できれば良いと思っていたけれど、17 個の目標だけが世界の人々が困っている問題ではないことがわかった。 ・ 17 個の目標から今学期の自分の目標を設定していたけれど、自分の生活にも 17 個以外のところに目標とすることがあるかも知れないので、卒業する 3 学期の目標では、そこについて考えてみたい。	・ 17 の目標だけが世界の課題であるといった視点に限定されず、自ら世界の課題を見つけたり、気付いたりすることにも新たな価値を見出させたい。 ・ 評価基準に基づく本時の評価を実施する。	
9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法） SDGs に挙げられた 17 個の目標だけが世界の課題なのかを問い直し、これからの自分自身の SDGs に向けた取組の在り方を再考し、単元を通して考えたこと・感じたことを含めて自分の考えを表現することができる。（ノートへの記述・授業過程「まとめ」の時間における発言内容）【思考・判断・表現】			
10. 学習方法および外部との連携 ・ 独立行政法人国際協力機構 中国国際センター（JICA 中国） 市民参加協力課（外部機関との連携） ・ 広島国際理解教育研究協議会（外部機関との連携） ・ 広島大学大学院 人間社会科学研究科（外部機関との連携）			

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

- ・教育誌や教育系学会誌への授業実践寄稿
- ・国際教育分野における官制、民間研修等での授業実践発表
- ・SDGs に関する講師招聘校内外における研修等の計画・実施

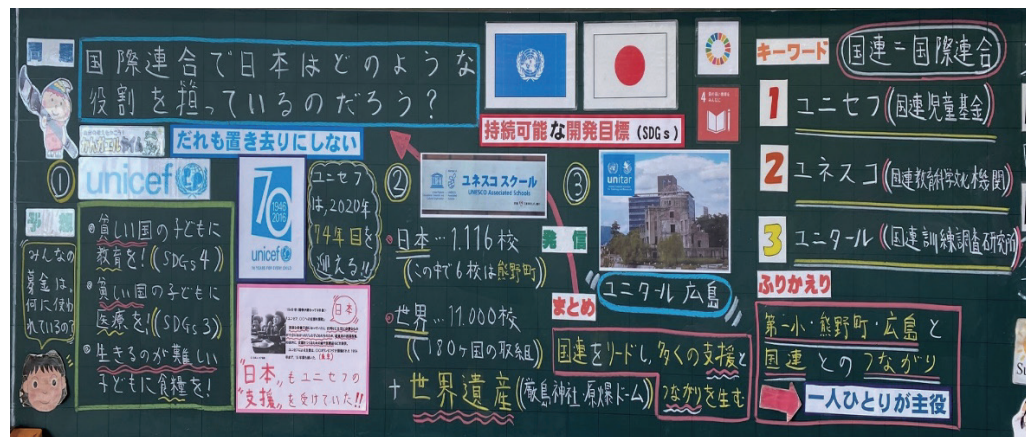
【自己評価】(※授業実践実施後に記述)

12. 苦勞した点	※学習活動が展開する中での苦勞や、そこで見えてきた問題点を記入して下さい。 本研修の報告書締日との兼ね合いもあり、平成 29 年告示の小学校新 CS に示されている一般的に言うところの「日本の歴史」の学習の全て終えることなく、単元の区切りのタイミングで一旦「日本の歴史」の学習を止め、本単元の実施することになった。そのため、今後の「日本の歴史」の学習（明治期以降）や「日本とつながりの深い国」の小単元中で獲得すべき知識を単元外の時間で先修する必要性があった。取り扱った「不発弾処理」という内容上、児童のレディネスを活用した思考や、協働的な学びの場の設定は欠かせない。やはり、新 CS に示される履修順に沿って単元の設定をしたかった。
13. 改善点	※実践を再度実施することや、他の学校で追試する場合のことを想定して、改善点を示して下さい。 本研修の内容を鑑みるならば、やはり小学校第 6 学年（社会科）となると、本単元を授業実践単元として設定したい。しかし、本来の学習する時期に設定することができなかった。拙い実践ではあるが追試されるのであれば、ぜひ、本来の学習時期（2 月～3 月）に設定し、単元構成や取扱時数も再考して実施してもらいたい。
14. 成果が出た点	日本の国際協力、国際支援、国際援助についての学習内容から SDGs について直接的に再考させた。多角的な見方・考え方をもって、これからの日本の国際社会での役割や自分自身ができることについて、児童各々が思考を深めた。また、学びを広げ、学校生活において SDGs と視点を重ねた行動計画を立てることができた。
15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	※この単元における学習者の変容が読み取れることを意識して下さい。記入者が文章記述を通して「このように変容した」と教師の言葉でその見取りを書くことも可能ですが、できる限り学習者本人の言葉や作品で示していただくことにより、具体性、説得性の高いものになります。 ①本単元の学習における全時間の板書と学習問題  【本単元計画外で本年度 4 月に行った授業実践における板書 (SDGs 関連事項)】 めあて: 『SDGs について知り、自分たちの生活とつなげることができる。』



【本単元第1時】

問 題:『世界の人々が困っている課題を解決するために、日本はどのような活動を行っているのだろう?』



【本単元第2・3時】

問 題:『国際連合で日本はどのような役割を担っているのだろう?』



【本単元第4時】

問 題:『日本が行っている国際協力、国際支援、国際援助にはどのようなものがあるのだろう?』





1



②単元における児童のノート（本時を中心として）

問題 ラオスが示す18番目のSDGsは世界が取り組む目標としてふさわしいのか。

かんがえタイム
(いいと思う)

① 不発弾があると平和ではないので、むしろ⑦がふさわしいと思う。

でも実は...意外とみじかに不発弾が見つかる国がある。

かんがえタイム②
2030年までの目標をたてることはむずかしいかもしれないけど、入れたほうがいい。

③ 世界に残る不発弾 1700年間 → 世界の課題

キーワード
① 持続可能な開発目標 (UNDP)
ラオス → 18番目も、国連開発計画 予想。

・SDGsとしてはふさわしくありません。あけは世界が決めたのがSDGsだから必ず、それからラオスの国の目標としては良いと思います。

・今後入れたら良い。

・不発弾は世界各国の問題ではない。

・も、と国、ていることがある。

・不発弾で苦しんでいるという事は事実。

・ラオスも一人ひとりに入ると、思うした人も置きざりにしないのが、SDGs。

ふりがえり 発信
「あなたにも、今考えるSDGsってどのようはものですか？」

私にとってのSDGsは、今自分ができることから取り組む目標。一人一人が安心してくらす世界を作るための目標。たもとおさりにせず、一人ひとりが今後の目標として、未来をつくること。ふりがえりしたと思います。

あすの不発弾処理
「不発弾処理は、危険な作業です。専門の技術者が、慎重に行います。不発弾処理は、平和のための重要な作業です。」

前工事中
「前工事中」と地響き

問題
ラオスが示す18番目のSDGsは世界が取り組む目標としてふさわしいのだろうか？

キーワード
① 持続可能な開発目標 (UNDP)
ラオス → 18番目も、国連開発計画 予想。

・SDGsとしてはふさわしくありません。あけは世界が決めたのがSDGsだから必ず、それからラオスの国の目標としては良いと思います。

・今後入れたら良い。

・不発弾は世界各国の問題ではない。

・も、と国、ていることがある。

・不発弾で苦しんでいるという事は事実。

・ラオスも一人ひとりに入ると、思うした人も置きざりにしないのが、SDGs。

不発弾はラオスだけでなく日本も!!
日本は被害者であり加害者ともある。
今も日本は不発弾と戦っている。
世界に残る不発弾、一番身近にある日本に不発弾があることを知りません。この不発弾のことは日本中の人が知れるようにすれば良いと思います。

不発弾 700年間 世界の課題

ふりがえり
SDGsは17目標があるけど、その国によ、てにちも付け加えてほしいという希望があることを知りました。その目標全てをSDGsに入めることはむずかしいと思いますが、17の目標では世界が幸せにならないうことを知りました。

問題
ラオスが示す18番目のSDGsは世界が取り組む目標としてふさわしいのだろうか？

私には...ふさわしくありません。理由は、不発弾は世界各国にあるわけでもないし、世界の人々が取り組む目標ではないと思います。また、ラオスのSDGsを許可してしまつと、この国が勝手にSDGsをつくらうとしてしまつから、私はふさわしくありません。もっと、国、ている目標があるのでは？

・ラオスの目標では、世界にふさわしいと思った人の意見。不発弾で苦しんでいる人がいるから世界が協力して助けたい。ラオスも一人ひとりに入るし、これも置きざりにしてはいけない。

ふりがえり
実は...日本も不発弾に苦しんでいる。1日約4個も見つかる。【日本は...】ラオスを支援（不発弾処理）日本も同じで苦しめられている。それでも世界の目標ではないといえるのだろうか？

・18番目のSDGsの取り組みとして、これはふさわしいと思った。世界に残る不発弾 700年間 世界の課題。SDGsに入るか入らないか、関係ない。

私にとってSDGsは、前までは世界中の人が同じ。でも、今取り組むSDGsは、たとえ今日この勉強をして不発弾はラオスだけでSDGsとは少し違つて、思っている。自分には日本にも不発弾が苦しめられている。自分自身で行動したい。

◎ノート記述とグループでの協働的な学びの場におけるヒアリングにおいて発信された特筆すべき児童の振り返り（一部、ひらがな表記を漢字表記へと変換）

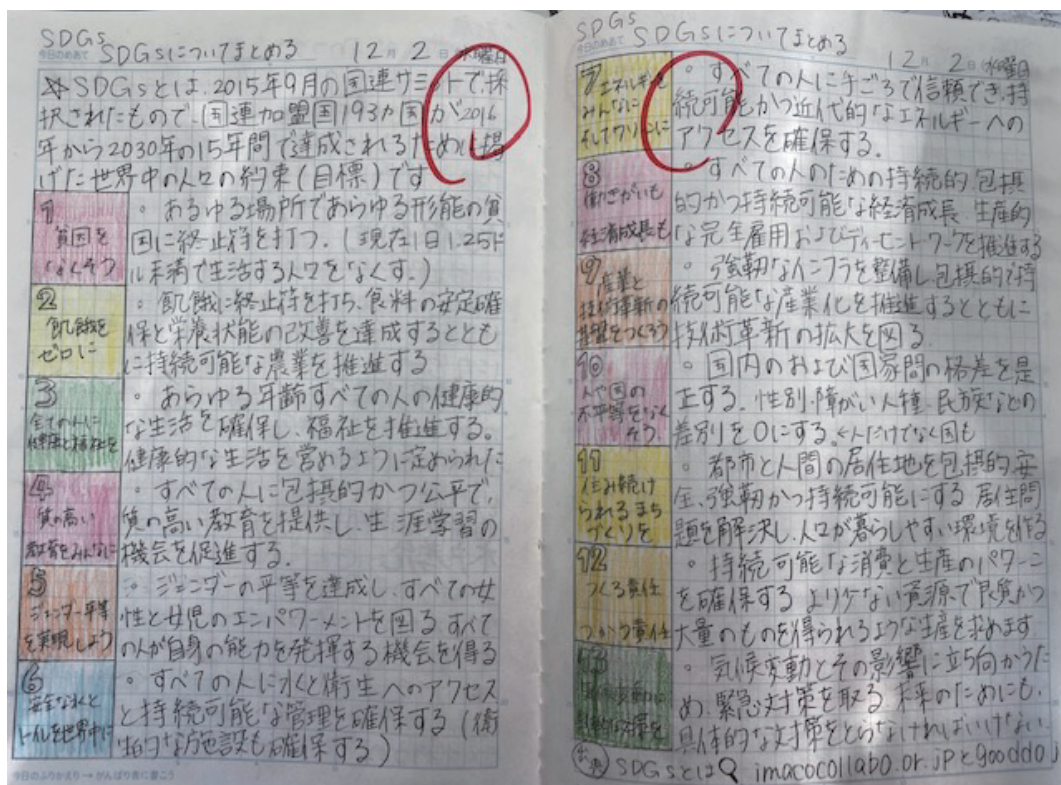
・SDGsには、17の目標があるけれど、その国々によって「これも付け加えて欲しい」という希望（課題）があることを知りました。その目標（課題）全てをSDGsに入れることはできないと思いますが、SDGsの17の目標だけでは、世界が幸せにならないこと知りました。

・僕が今、考えるSDGsは17の目標だけでは足りないものだと思います。今日、学習した不発弾のように、見えない所で苦しむ人がある問題というもののはきつと多くあり、17の目標だけでは、カバーしきれないほどあると思いました。だから、僕は、今はまだ未完成なSDGsと考えました。

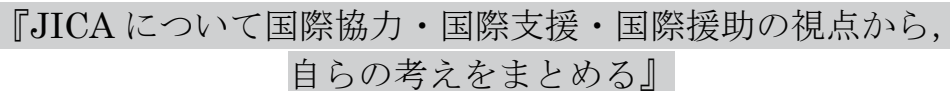
・今、考えるSDGsは、2030年までが締め切りだけれど、2030年を越えても取り組んでいける目標だと思います。自分や世界が取り組めるものがSDGsです。

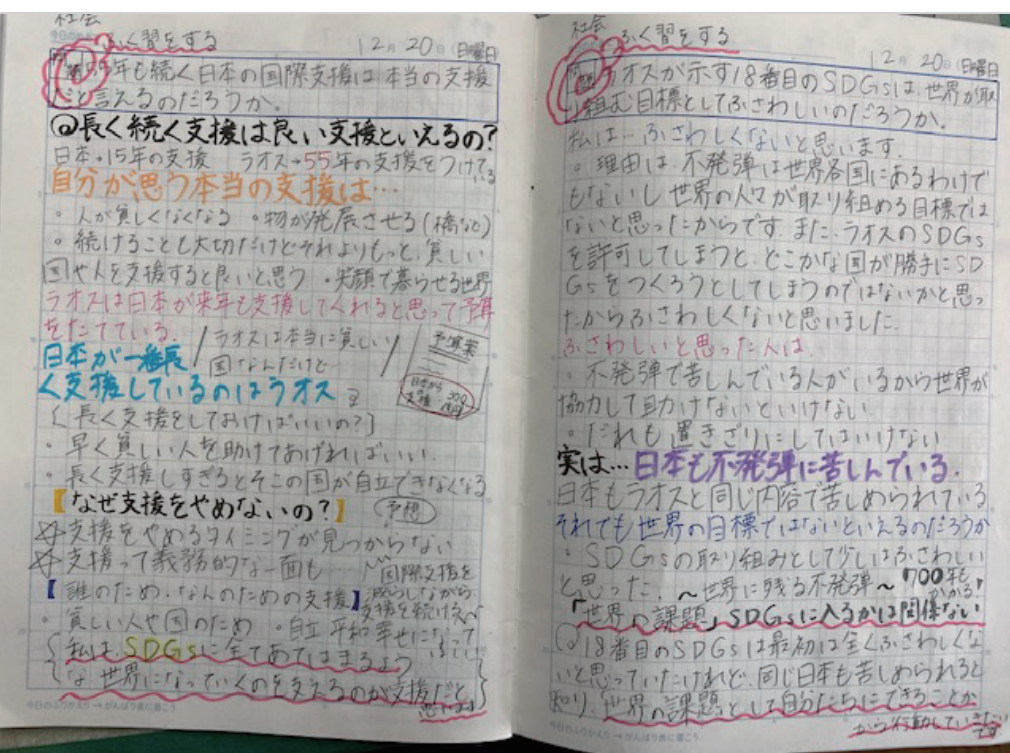
・私にとってSDGsは、これまでは世界中の人々が困っていることに対して取り組む=SDGsだと思っていました。今日この勉強をして、例えば不発弾はラオスだけの課題でSDGsとは少し違うと思っていたけれど、身近な日本も不発弾に苦しめられていると知ったので、まずは私にできることから行動していきたいです。

③授業実践実施後に知識と思考の再構成が図られた自主学習ノート



『SDGsについて国際協力・国際支援・国際援助の視点から、自らの考えをまとめる』



	 『世界の課題に対して、自分たちにできること』
16. 授業者による自由記述	本実践の実施に向けて、多大なご支援をいただきました JICA 地球ひろばの担当者の皆様、GiFT の皆様、JICA 中国国際センターの新川美佐絵様、そして、指導案を基にご指導下さった本研修アドバイザーの先生方、更には授業を参観に来て下さった先生方に、深甚の謝意を表します。本当にありがとうございました。また今後とも、御指導何卒宜しくお願い致します。

17. 参考文献・参考資料

【書籍】

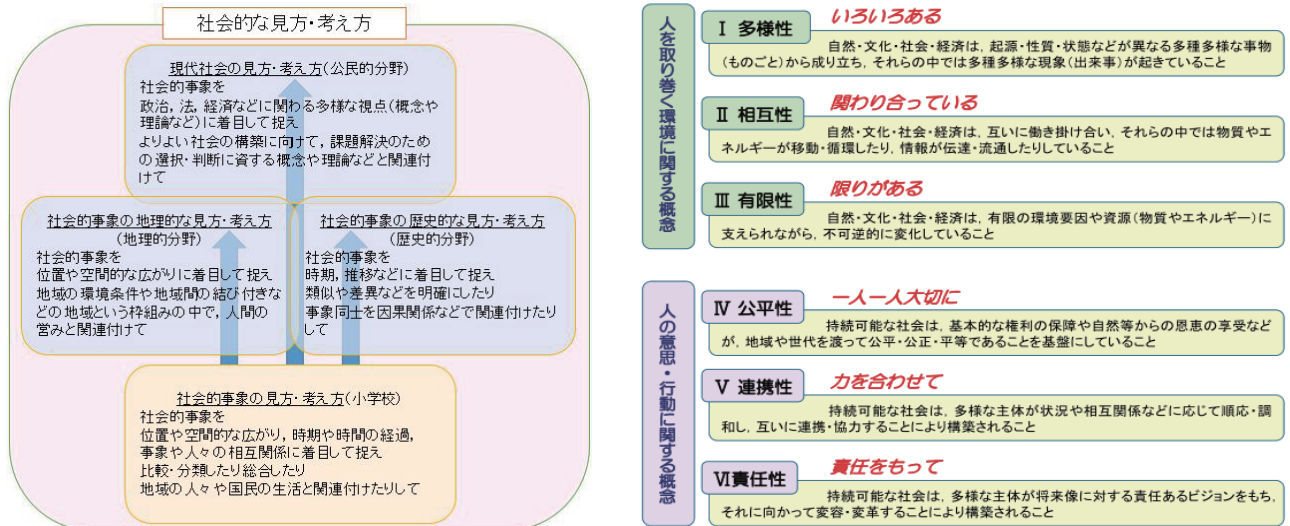
- ・青山利勝「ラオス インドシナ緩衝国家の肖像」中公新書(1995)
- ・梅津正美 他「批判的思考力の発達を促す教育的働きかけとしての社会的判断力の育成」『社会科研究』第 90 号, 全国社会科教育学会(2019)p.3
- ・大津和子「国際理解教育 地球市民を育てる授業と構想」国土社(1992)
- ・小原友行・永田忠道[編]「『思考力・判断力・表現力』をつける中学地理授業モデル」明治図書(2011)
- ・菊池栄治「他人事≒自分事 教育と社会の根本課題を読み解く」東信堂(2020)
- ・国際協力機構「持続する情熱-青年海外協力隊 50 年の軌跡」万葉舎(2016)
- ・高橋和志・山形辰史[編]「国際協力ってなんだろう」岩波ジュニア新書(2010)
- ・田中義皓「援助という外交戦略」朝日選書(1995)
- ・中村祐哉「第 68 回 初等教育全国協議会 研究集録」広島大学附属小学校(2020)pp.60-65
- ・中村祐哉「国際社会における「本当に必要な支援とは何か?」を問う構想型授業の構築」『社会科教育』第 699 号, 明治図書(2017)pp.58-61
- ・中村祐哉「教師海外研修 ラオス 授業実践報告書」JICA 中国国際センター (2016)pp.23-32

【映像資料】

- ・「ラオス不発弾撤去 シエンクアン県パーサイ郡」<https://www.youtube.com/watch?v=WceFVtI1K90>

18. 授業構想における参考資料

本実践において、初等社会科の教科教育における「社会的な見方・考え方」及び、持続可能な開発のための教育における「学習過程の構想」については、以下の資料を参考にしている。



○取扱図出典

- ・〈左図〉文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」(第2部)(国語, 社会, 地理歴史, 公民)「『社会的な見方・考え方』を働かせたイメージの例」(2016)
- ・〈右図〉国立教育政策研究所 教育課程研究センター「ESDの学習過程を構想し展開するために必要な枠組み」(2012)